

ぜん にん じ じ ほう 善 仁 寺 寺 報

THE ZENNINJI NEWS

2017年9月25日発行

発行者 青山 満 発行所 東京都文京区小石川4丁目13番19号

TEL 03(3811)4803 FAX 03(3811)3295

E-mail kbpkm386@ybb.ne.jp

行われていた風習が伝わったようですね。もう少し詳しく見ていきますと、望月仏教大辞典に「仏供」という言葉で、表されています。内容は長いので、重要なことだけ申し上げますと、「供養する所の物は但だ五辛酒肉等の不浄を除く、其の供養の器は皆金銀銅鉄瓷等」云々の部分であります。つまり、御仏飯とは仏に供える供養として行う、しかし、そのお心というはお飾りの意味をもっているとい

「教え」もそうではないですか？言葉にできない世界を言葉にしてきた数多の悪戦苦闘の歴史が、今私たちがいただいている教えの背景にあるのでしょうか。さて、真宗門徒は霊供膳をいたしません。仏事にあたつて亡くなった方へ差し上げる膳。陰膳供養などとも言います。その姿かたちは、同じようなものかもしれませんが、大

vol.27

お ぶうい ぱん 御 仏 飯



仏様に毎朝お供えするご飯のことを「御仏飯」と言います。中央の写真のように円筒形にご飯を固めてお供えします。まず、その由来をたずねてみましょう。新仏教辞典(誠信書房)には「仏飯」とは「仏前に米飯の初を供えること。インド以来の風習で現在も行われる。」とあります。「初」とは「おはつ」とも言い、その日の朝に炊いたご飯ということですね。そして、仏教発祥の地であるインドで

うことです。「お飾り」と言っても金銀アクセサリーで華やかに見せるという意味ではありません。そこには「莊嚴」という深い意味があります。莊嚴とは形のないものを象る。浄土という色も形もとらえどころがない世界を私共の認識できる形で表すことで、感じとる手立てとなるのです。

事なことは、お香の特集の際にも書きましたが、私たちが「差し向ける」ということは浄土への無関心、無理解に つながるといふことではないでしょうか。つまり、浄土を娑婆の世界の延長として考えているということですね。一日の始まりがお内仏の莊嚴に始まり、お浄土へ心向ける。その一日の積み重ねは私たちの生活全体を念仏へと変えさせるのでしよう。

では、このお仏飯の円筒形にする方法をご案内します。用意する道具は「盛槽」といいう器具です。心太を押し出すような器具で、空洞の筒と、押し出し棒のようなものです。

突き出し盛槽の例

(ステンレス製)



※真鍮製や、プラスチック製のものもありますよ。

仏陀

Buddha

生涯と教え
第二十一回

菩提樹の下で

スシヤータの乳粥(ちちがゆ)によって、回復したシッダールタ沙門は、もう一度自分が倒れていたナイランシヤナー河(尼連禅河)の辺に向かいました。そして、向(こう)岸(西側)へ渡っていききました。前回の写真の通り、水がほとんどない河であるので歩いて渡れたようです。そこに本の樹がありました。その樹の下に決めました。シッダールタは村人からもらった吉祥草を敷き、樹の周りを3回まわって礼拝しました。東側を向いて結跏趺坐(けっかふざ)を曲げて西足の裏を上向けにする座り方。如来の坐方(ざほう)をしました。そして、静かに目を閉じて瞑想(めいそう)に入りました。先に結論から言いますと、この樹の下でシッダールタは真理に目覚め、「仏陀」となられます。その為、この樹は仏陀が覺り(ぼだい)菩提(ぼだい)を開かれた場所

として、「菩提樹」と呼ばれます。この樹自体はアシヴァッタとも言われイチシクの樹の一種であるようです。インドの各地にあり、現在においても聖なる樹とされています。また、この地は後に「ブッダガヤー」と名付けられ、四大仏蹟のひとつとなりました。現在はボードガヤーという地名になっているようです。この地には、大菩提寺(マハーボディ寺)という大きなお寺があり、世界遺産になっており、仏教聖地として世界中の仏教徒がお参りに来ます。さて、戻りましょう。少し詳しく書きます。ここで有名な話は「悪魔の誘惑」です。静かに樹下で思索する口がいく日も過ぎていききました。しかし、覺りには至らない、そんなとき「降魔(しゅま)」「悪魔が降りてくる」が起りました。中村元氏(仏教学者)によると、最も古い記述では、この悪魔は「神聖なる火に供物を捧げてください、多くの功德を積めるのだ。命永らえて諸々の善行をなすのだ。」



→朝の大菩提寺の様子(インド/ボードガヤー) 撮影/小林賢勝。煉瓦造、高さ53メートル。紀元前3世紀頃から増築繰り返し、7世紀頃に現在の形となったと伝わる。

と語りかけてきたといひます。これに対してシッダールタは「汝は世間の善業を求めてここに来たか、私には世間の善業を求める必要は微塵もない。」と答えました。この対話の中には「火」というバラモン教(仏教以前のインドで中心的な宗教)の儀式に対しての仏教からの批判が描かれているとも考えられるようです。それならばと、悪魔は美しい女性の姿となって誘惑しますが、シッダールタ沙門に近づくと老醜(らうしゆう)に変じ、悪魔の魔力は真実の力によって霧散するのでした。(つづく)

三筆後記

今年の夏は夏らしい日がありなく、すっきりしない天気が多かったですね。そんな夏も終わる頃、寺の段差で足を捻って、左足の甲の骨を折ってしまいました。初めてのギブス生活は何ともストレスのたまる日々でした。しかし、そのうちに、焦っても折れた骨がくっつくわけでもなし、出来ないないものはできないという気持ちになりました。任せるところは思い切つてスタッフに任せられない、今の自分ができるは(ここ)まで。「分限を知る」「分水嶺の本願」。人間と仏との関係性をとらえた皆我輩深師の言葉が思い出されました。衆生の分限を知ること、なかなかできません。

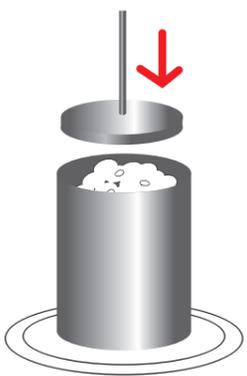
合掌

(しゅうまん)

まず、筒を水につけます。そして、筒の下にお皿をつけて、隙間がないようにして、上からご飯を詰め込みます。



適当な量を入れまししたら、上から突き出し棒でギューギュー押し固めます。ここでしっかり固めないと、すぐに崩れてしまいます。



次に筒だけを抜いて、ご飯を取り出します。崩れないようにお仏器に乗せて、完成です。毎朝、お勤めをした後にお供えして、正午にお控え(お下げ)いたします。お下げしたお仏飯はトースターなどで焼いて、お茶漬けに

してお昼にいただきます。大事な仏事の二つです。毎日が大変なようでしたら、ご先祖のご命日の日になさるなど、是非とも実践していただきたいものです。

帰敬式(のし報告)のご案内

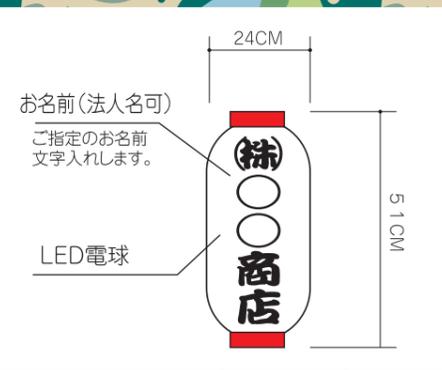
本年(2017年)2月28日に善仁寺に於いて帰敬式が執り行われました。帰敬式とは生前に法名をいただき、仏弟子となることを告げることで、仏法を瞻聞する(と以外にすぎない)は、ありません。帰敬式を受けましたら満足して、お弟子とごつわけにはいけません。帰敬式を受けてから歩み出すという意味です。今まで受けてこられた方々として、わがご受けようと考えておられる方は、このことをしっかりと受けとめてください。

Topics 善仁寺のお知らせ

● 本年(2017年)11月15日(土) 15:00～16:00 善仁寺(または法人)の口述(先着400名迄) ※お一人(または法人)の口述

除夜の鐘の御祈り(お供願)

● 善仁寺では長年「除夜の鐘」つぎを催し、近隣の地域に方へも開放して、甘酒やお餅などを振る舞っております。除夜の鐘の前後約10日程度、境内を提灯で飾り付けをいたしております。この度、この機会に並り、寄付のお願いを申し上げます。系統的に行事を存続させる目的として皆様には何卒、ご協力のほどを、よろしくお願い申し上げます。寄付者の方のお名前(ご指定可)を提灯に表示してお飾りいたします。



提灯イメージ図



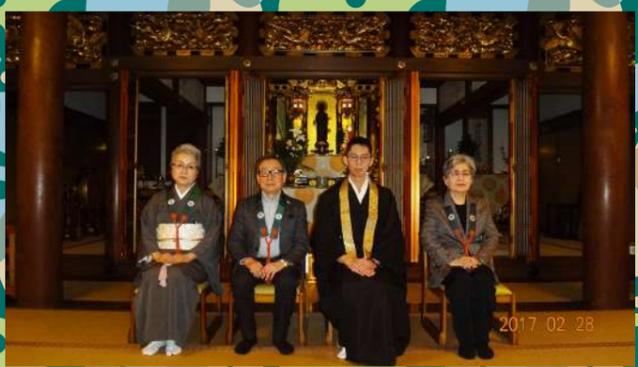
● 提灯飾り期間 2017年11月15日まで
2017年11月15日(土) 15:00～16:00 ※定員になり次第締切

2018年善仁寺帰敬式のご案内

● 2018年11月15日(土) 15:00～16:00 善仁寺(または法人)の口述(先着400名迄) ※お一人(または法人)の口述

法名	俗名
釋尼慈惠	友野 恵代
釋 和敬	高山 和則
釋尼實典	高山 典子

(以上 3名)



帰敬式受式後の記念写真(於善仁寺本堂)

1. お申込み期限 2017年11月末日迄
2. 志納金 金 5万円(お一人) ※付き添いの方、食事代 金 5千円(お一人)

Book
寺の本棚
「苦海浄土」(全三部)
石牟礼道子著
(藤原書店)



この本については書名は知っているという人が多いと思う。しかし、現代において読まれなくなった本のひとつではないだろうか。「水俣病」という我が国戦後最大の公害病に、その生涯をかけて寄り添った著者の代表作である。

この本が読まれなくなった背景と取り上げられてはじめて知ったのであった。この本の紹介者として出演されていた若松英輔氏(批評家)が「初めてこの本を読んだとき、このま

3 申込方法
お電話又は受付にて申し込み希望の旨をお伝えください。
後日、善仁寺より帰敬式の詳細のご案内と申込書をお送りします。

4. 注意点
①必ず受式者本人の参列が必要(代理受式はできません。)
②居士・大姉・信士・信女はつきません。
③申込より過去1年以内に善仁寺同朋会への参加が希望です。
④善仁寺所属のご門徒に限りません。ご家族、ご親類は可(ご友人などは不可です。)

ま、この本を読み続けたら自分の人生が変わってしまうと感じたと述べておられた。

それは、全てが崩壊していく患者たちの姿の経過の克明な記録に自分自身も感じたことであった。村の若い偉丈夫の漁師が四つん這いになって食事をする事、しかできなくなるなど誰が考えただろうか。将来を囁望された若者が、文字通り、言葉を話せなくなる現実とはいかなるものであるのか。すさまじい水俣病の症状の内容であるにもかかわらず、村人を描くその生活は、どこかユーモラスで笑ってしまうような可笑しい会話が飛び交う。

最後にはチツソとの直接交渉の場、ある女性患者の言葉を6頁にわたって記載している。その中の「人間な、なんのために、生れてくるか、なんのために生れてきたか」という言葉が全てを物語っているのではないか。仕事も、生活も、宗教も、故郷も、国家も、それが当たり前前に生きている罪業性を問われるような作品である。